JRTU JR連合

JUSTICE

自らを変える!! 明日を創る!! イースト イノベーション

基本理念
1. 社員で考え、社員のための労働運動を目指す 企業内労働組合
2. 心とこころをつなぐ相互扶助活動と、次代につなぐ社会正義の実現を目指す

ジェイアール・イーストユニオン
発行者　菅野一位
編集者　教宣部
〒105-0021
東京都港区東新橋2-8-28
TEL(JR) 057-7333
TEL(NTT) 03-6452-9687
ホームページ検索
「ＪＲＥユニオン」

ジェイアール・イーストユニオン「第10回定期大会」開催！

組織結成の原点に返り、私たちの掲げた「会社と共に」を職場から具現化し、次代につなぐイースト運動から組合員と家族の幸せを実現しよう！

ジェイアール・イーストユニオン「第10回定期大会」は、７月15日、田町交通ビルを本会場に、新型コロナウイルス感染症拡大の第７波を考慮し、新潟・仙台各地方本部をリモートでつなぎながら、会場には来賓を含め約30名の参加で開催されました。

大会議長には新潟地方本部 高橋代議員が選出され、質疑応答では代議員・特別代議員７名より事前に寄せられた質問を中心に、２０２２春闘、安全の確立、組織強化・拡大、イーストイノベーションと変革２０２７、政治運動等、当面する運動方針を全体で確認しました。

秋山副委員長の総括答弁の後、提案された各議案、大会スローガン、役員改選が満場一致で承認され、菅野中央執行委員長の「団結がんばろう！」で成功裡に締めくくられ、「イーストイノベーションを掲げ、魅力と信頼のある組織を築き仲間の総結集を目指す」取り組みを確認しました。

菅野中央執行委員長挨拶（要旨）

ジェイアール・イーストユニオン第10回定期大会にご参集の代議員・傍聴者の皆さん大変ご苦労様です。また、ご来賓の皆さまにもご臨席を賜り、ありがとうございます。

残念ながら本日の開催におきましても、リモート併設の開催となり、組合員の皆さんとひざを交え議論することが叶いませんでした。約２年半にわたるコロナ禍は私たちの生活を大きく変化させ、考え方においても厳しく難しい環境を作り出しました。

しかし、私たちには掲げた目的・目標があり、それをこのコロナ禍を理由に投げ出すわけにはいきません。今回の第10回大会は、私たちの次の組織に向けた重要な大会であり、代議員の皆さんには組織についての発言をお願いし、その議論を強く要請します。

第26回参議院議員選挙が終わり、組合員ご家族の皆さまのご支援により、私たちが支援する川合孝典参議院議員が再当選を果たすことができました。本当にありがとうございました。今後は私たちイーストユニオンとの連携をお願いしながらJR東日本の労働環境改善に一緒に取り組んでいきたいと思います。また滋賀県知事選挙でも、私たちの組織を支援していただいている三日月大造知事に置かれましても再選を果たしました。併せてご報告をいたします。

しかし、今回の選挙戦で応援演説中に殺害された安部元総理への暴挙・蛮行に対しては、大きな憤りを感じるとともに、国内で発生するテロ的行為には治安的な観点からの強化を求めます。安部元総理のご冥福を心からお祈り申し上げます。

また、ロシアのウクライナへの軍事侵攻に対しても、多くのウクライナ国民・市民が犠牲となっている戦争行為です。世界経済への影響からも、一刻も早い平和的な解決を望みます。ロシアの独裁的な一強政治を批判するとともに、これまでも取り組んできた「JR東日本に過激派はいらない」との民主化闘争の完遂に向けてJR連合と共に最後まで取り組んでいきます。

さて今大会で、ぜひ議論していただきたいことについて、何点かご提起し執行部を代表してのご挨拶としたいと思います。

私たちは、私たちが求めるすべての仲間が活き活きと働き、明るい将来展望を描くことができるようにするための「企業内労働組合」として、会社がJRグループの中で社会的使命を果たし続けることができるようJR連合、JR各社の仲間と共に、取り巻く環境の整備を行っていかなければなりません。

思い起こせば「JR東日本民主化闘争」の開始宣言

から23年を迎え、今ほどその必要性が求められている時はないと考えています。現状は国鉄改革に並ぶ大転換期であり、会社が強く推し進める「変革２０２７」は、目指すべき方向性自体は私たちイーストユニオンの考えと変わらないものであると認識しています。そのような中での問題は、現場第一線で働く仲間が理解し納得して施策実現に向けて行動できるかにあります。私たちは、組織結成の原点である仲間に寄り添った運動を展開するなかで、職場からの企業内労働組合の基盤を再構築していく運動を実践していきたいと考えます。

私たちは「会社と共に」を発信し、「イーストイノベーション」を実現する事から多くの仲間の結集を図っていく運動に取り組んできました。私たちが目指す組織の実現に向け、すべての仲間が遮二無二「前へ！」行動する事、組合員が一丸となって行動することを強く求める中で、現状での代議員の本音の意見を要請します。

次に、会社の土台となる「安全の確立」について、JR東日本で働く仲間および組合員の幸せと、会社の持続的発展を実現していくためには、「安全は絶対に譲らない」信念の下、すべての社員が参画する「JR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を実現することです。鉄道事業を主体とする当社の一番の信頼は、輸送の中での安全でしかありません。ベテラン世代からの技術継承としての壁は、10年の経験値差が大きな問題となっています。コロナ禍のせいにして時間軸が縮まったとは言え、施策を足早に進めるには現場とのしっかりした連携が必要です。ここで大事故を起こすことは会社の存在をも脅かす事態となります。私たちは職場から議論し、施策に対してもしっかり取り組んでいく中で、チェック機能を生かした企業内労働組合運動を実践していくことが大切であると共にその大前提は「安全」であることだと考えています。ぜひ、皆さんからも職場からの安全に対してのご意見をお願いいたします。

労働組合の必要性を組織の最重要課題としながらも、会社の将来を切り拓いていく私たちの理念を広める運動の実践をしてきました。そして「JR連合ビジョン」からJR産業に集うすべての人材を包摂する運動の輪を、JR東日本の中に創る運動を職場から展開するとしてきましたが、現実は大変厳しい状況下にあります。

JR連合30周年を迎えイーストユニオンの原点を振り返れば、私たちの運動も29年目になります。JR東日本はもとより、JR産業に集うすべての仲間が寄り添い、心と力を合わせて未来を切り開いていくために、イーストユニオンはどうすべきかを代議員の皆さんの考えを発言として強く要請し、第10回定期大会での活発な議論を心よりお願いしまして、中央執行部を代表してのご挨拶といたします。

ご来賓の皆さま

ＪＲ連合
荻山市朗会長

第10回定期大会の盛会をお祝い申し上げる。日ごろの安全確立、感染防止をはじめ業務にご清栄されていることに感謝するとともに、献身的に組合活動に取り組んで頂いていることに御礼申し上げる。

JR連合は6月14、15日第32回定期大会を開催し新年度の方針を決定した。引き続きご支援を賜りたい。

参議院議員選挙の取り組みに感謝する。我々の政策、要望をいかに政治に実現していくか、コロナ禍の難局を少しでも早く脱却して持続的成長につなげるか、今が正念場であり、政治との関りが今ほど重要な時期は無い。支援する、支援いただける議員の皆さんと連携してJRの展望を開いていきたい。三日月滋賀県知事当選についても併せて報告する。

サービス連合、航空連合の皆さんや、一番影響を受けている仲間と連携をして国、行政に要請していく。自助努力も限界にきているので需要を拡大するしかない。そのことを繰り返し訴えている。5月6月に大臣要請を三産別で実施した。我々の声を丁寧に聞いて頂いた。引き続き三産別共闘を含めて政治の力を使いながら要請をして、この苦境を乗り越える。

5月18日にJR連合結成30年を迎えた。鉄道開業150年の節目の年である。産業政策をどう臨んでいくか。人口減少、少子高齢化、地方の道路整備が進んでいる。また、地方の過疎化、技術革新など物凄いスピードで社会が変化している。コロナで10年先の世界が一気に到来してしまった。国鉄改革に並ぶ大転換期に置かれている。社会の変化は早くなっているのでJRの延長戦ではやっていけない。大改革しないとこれから非常に厳しい状況。変化をすることによって持続的成長をしていくのかを問われている。

10月6日に30周年記念行事を実施するが、それに合わせて向こう30年を展望し第二の国鉄改革という決意で、骨太の新たな提言を示していく。

労働組合だけではなく会社も問題意識を持ってやっていただきたい。JR7社は同じ国鉄であったが連携が取れていない。他業界は業界団体がある。今こそタッグを組んでこれからの将来の鉄道をどうしていくか会社も発信していく必要がある。

組織拡大に関しては大きく潮目が変わっていく。東日本の中も相当ネットワークが繋がっていると思う。問題意識を持っている方もたくさんいる。いかに労働組合が役に立つのかを実感できる取り組みが大事。社友会とか職制だけでは職場の意見を取り上げ問題解決できない。良識あるまともな労働組合があり、ちゃんとした労使関係があるのは何よりもいいわけで、職場の管理者も大変疲弊し苦労していると思う。

JR連合30周年、鉄道150周年という大きな節目の年であるが、コロナの難局を乗り越え次なる持続的成長と、我々の地位向上を繋げていけるように全力をあげて取り組む。

ＪＲ連合役員紹介
宮野企画局長
相良組織政治局長
戸田職員

田村まみ参議院議員

ジェイアール・イーストユニオン第10回定期大会開催おめでとうございます。

7月10日投開票の第26回参議院議員選挙川合孝典氏当選。皆さまに感謝する。

新型コロナウイルス感染症の拡大の中で、私たち職場の声を実際に直接届けられる国会でのツールがいるといないとでは大きく違うと実感していただけるような活動を心がけて二人で活動してきたことが何とか伝わった。

JRの経営状況は非常に厳しい。地域で生活してい

く日常を守っていく公共交通の役割を守っていく国会活動をしていく。

カスタマーハラスメント対策が大きく進んだ、皆さまは時間通りに運行して、当然のようにお客さまを運ばなければならない。その中で何かあれば全て自分たちが受け止めなければならない。悪質クレーム、カスタマーハラスメントを受け止めるのは当然だと、志高く仕事していることを目の当たりにした。一方で行き過ぎたことが社会の中で顕在化する中でこの活動ができた。法律改正まで至っていないが昨年度企業向けの対策マニュアルを正式に厚生労働省が出した。政府が認めるところまできた。一方で法律にしない理由、カスタマーと事業者の関係でなにかがあった時には事業者が対応するのだという政府の姿勢。現場の事業者が対応しきれない部分を何とかしてほしい。ここに向けての手当が必要である。事業者だけではなく、利用者にも現状認識がなければ解決にならない。

日本のピンチで右とか左とか言っている場合ではない。給料を上げ日本を上に前に進めていく。労働組合出身の議員としてしっかり取り組んでいく。

川合孝典参議院議員

先の参議院議員選挙に力強いご支援に感謝申し上げる。過去経験のない厳しい選挙であった。改革中道の旗を掲げて筋を通して戦った。今後６年間私たちの、労働組合の主張を堂々と国会の場で行う。今回得た議席をＪＲ連合、イーストユニオンの為に全力で使わせていただく。

昨年よりＪＲ連合と連携して取り組んできた、コロナ禍で赤字路線の存続についての議論について今の社会構造の中で、３０年以上前につくられた国鉄再建法に基づく議論とは別に新しい将来に向けた鉄道、ＪＲの在り方の議論を行う。今年の２月から地域モビリティーの今後の在り方の検討を行うことが国土交通省ではじまることとなった。赤字路線の地方自治体との上下分離を行った上での存続等、日本の鉄道インフラをどう守っていくか今後議論となる。皆さんのお力添えをお願いする。

交運共済東日本事業本部
松井正義事業本部長

対面で話しさせていただくのは久しぶりである。交運共済の日ごろの事業活動にご協力いただいていることに感謝申し上げる。

来年７月１日に総合共済を除く全ての任意共済がこくみん共済全労災へ契約移転することが決定している。年明けには契約の移行手続きとなる。契約年齢が高いと指摘がある。現職者を対象にした共済で、退職者については地域の推進本部が対応となる。生命共済、自動車共済にはデメリットが生じてしまうのでここを課題として取り組んできた。また、退職者に対してはいずれかの退職者団体に加入するように勧める手紙を出している。

エルダー後の契約社員として働く方が多くなっている。労働組合と縁が切れると一人ひとりとされてしまう。働き方改革が声高く叫ばれているが、働かされ改革という不定義な感性も労働組合として必要ではないか。

メッセージ

Ｊ-ＴＲＥＣ労働組合
執行委員長　鈴木光敏様
ＪＲ連合加盟各単組
執行委員長様

質問事項

高橋基逸議長

２０２２春闘について

・コロナ感染症発生以来、度重なる行動の自粛、企業の働き方や生活様式の変様により、ＪＲ発足以来の厳しい状況に直面しているうえ、いまだに終息を見せない東北を震源とする、地震の発生によって我社の経営も更に打撃をうけている。

・このような経済状況であるので、ベアｏはやむをえないと思った社員でも、定期昇給の減率には衝撃を受けたのではないか。今年度は、４係数と回復にはなったが、賃金の上がらない条件の中でも会社が社員に求めるものは、常に高度なもの。

・私達は、厳しい状況ではあるが、組織行動を果敢に展開し仲間の声を集約し、向き合いながら知見を吸収し、より具体的な提言内容へと練り上げ、そして、実現に向けた行動へとつなげていく。現場を支える組合員の参画なくして変革は成し得ないからこそ、民主的で責任ある労働組合の存在と、労使の連携・協力が重要となると信じている。このことがＪＲ東日本経営陣の中に感じないことが未だに信じられない。ＪＲ東日本は国内最大の鉄道会社で責任ある大企業である。

業務案件について

・会社が急ぐあまり小さなミス事故が増えてきている。このような事が積み重なると大きな事故へ繋がる。各職場の変革についてどうあれば良いのか。また、組合としてどのように対応をすれば良いのか考えをお願いする。

ローカル線・地方交通線のあり方について

・７月５日、深沢社長は記者会見にて、利用者の少ない地方在来線の収支を自治体や地元の皆さまと今後のローカル線・地方交通線の在り方を議論するため７月末に公表。また、他のＪＲ会社が公表を行う中で情報開示が必要と判断したと発言があった。なぜ利用者の少ない地方在来線の収支のみ発表するのか？全路線を発表するのが筋ではないか。これでは地方在来線を切り離すために情報を公開すると判断されかねない。お客さまや投資家が我が社は都合の良いことだけ開示して経営を行っていると判断され社会的な信用、企業価値を下げてしまう。本部には今後、地方在来線で働く我が社やグループ・協力会社社員の働く場の存廃に関わることが見込まれることから社員・家族の仕事と生活を守るため労働組合としてどのように鉄道路線網を維持するのが良いかを議論し、会社へ提言するなど積極的に本件に関わるようお願いする。

仙台・新潟会場

会社の将来展望について

・コロナ禍でのご利用減少で２年連続の赤字決算となり、今年度は黒字化が必達目標で、各自それぞれの職場で安全を守り収入を確保するため必死に働いている。

首都圏本部・東北本部・新潟支社への再編、現業機関の統括センター化が進められている。これまで我が社の鉄道事業が中心、首都圏で稼いで地方を維持するとのビジネスモデルが継続できないとの危機感が表れている。そこで私たちは、これまでの働き方ではない業務の融合に対応し多様な働き方ができるようにならなければならない。私たちの自らを変える‼明日を創る‼の考えのもとイーストイノベーションの実践が今こそ求められている。

組織関係

・月１回の執行委員会の実施、分会３役を交えた拡大執行委員会の実施を展開している。組織拡大についての議論がなされ今後とも未加入者、他労組の組合員への声掛け運動、情報の手渡しを継続する事を決定した。また、JR連合が推し進めているオイスカ名取ボランティア活動への参加により若手社員のボランティア活動への参加により、JR連合、ジェイアール・イーストユニオンの考えを身近に感じてもらえるように取り組みを実施してきた。

・行動＝組合運動が、支持・支援＝組合運動に変わってきているかもしれない。参加し易い運動形態を作る。今後諸会議において、代議員数や選出部門など検討が必要と思う。

・この間、多くの体験をし、革マル派系東労組役員や操られた一部経営者によって悔しい思いをしてもこの会社、この社会を守る観点から歯をくいしばって闘い続けてきた。

JR連合の全国の仲間の皆さま、先輩方に支えられてきたからこそ今を迎えることが出来たと実感している。私たちはこの道を選んで間違っていなかったと思っている。

JR東日本には今こそ真面目に働く社員の声を聞きJR産業の持続的な発展、成長をめざす労働組合が必要な時だと思う。社員会・社友会では会社に本当の声を届けることは出来ない。

・大宮支社では現在も労働組合加入者の社友会への参加は認められていない。私たちはこれまで反会社的な運動展開した事もなければ、会社倒産運動を展開した事もない。会社を正常化したい、過激派から会社を守りたいとの思いに立って運動展開しているにすぎない。社友会への加入を巡って「見えない壁」があると考え、こうした事が本来業務において、さらにイーストユニオンへの加入を巡る問題になっているのではないかと考える。

安全問題

・安全は輸送業務の最大に使命だとする観点からも、それを失っては国民の信頼を得ることはできず、衰退しかない。そうした認識に基づき、人材や技術の劣化を防ぎ、退職まで意欲を持って安心して働き続けられる、そして社会的使命を果たし続けられるJR東日本を築いていくことを組合員全体で確認しイーストユニオンは率先して行動する。

イースト・イノベーションと変革２０２７

・これまでの慣例や概念に捉われない働き方の模索や新たな生活様式が徐々に社会に浸透しており、適応力が組織に問われている。現行の労働条件をさらに向上させていくためには、社会の変化に順応し、企業価値の向上につながる付加価値を高めるべく、一人ひとりの生産性の向上を図る必要がある。それが私たちの目指す、イースト・イノベーションなのであると思う。

政治運動について

・今般第26回参議院議員選挙において「かわいたかのり氏」の当選を勝ち取るべく運動を展開してきた。具体的には支援者カードの集約と自ら支援を要請した仲間、家族への投票依頼活動を展開してきた。関東地協では支援者カード集約については50枚以上との目標を持って運動展開した。集会において運動総括すべく話し合い問題の抽出をした。問題として挙げられたことは組合員一人ひとりが自分の問題として捉える事ができなかった点にある事に気付いた。総花的なものから仲間一人ひとりの問題へと問題を具体化、責任の明確化する運動を展開していきたいと考える。

テロ行為及びお亡くなりになった理解者への対応について

・安倍晋三元総理がテロリストの凶弾に倒れる事件が発生した。私たちはこうした民主主義の根幹である選挙のさなかに、言論を暴力で封じる凶行がなされたことを強く批判する。安倍元首相はこの間私たちの会社に蠢く過激派革マル派の問題に強い関心をお持ちになっていらっしゃったと聞いている。私たちの運動にご理解を戴いていた方を本年は４名も喪っている。私はこうした皆様に哀悼の誠を捧げるべきであると考える。さらにこうした皆様に対し私たち自身の結成の「志」を決して忘れることなく、「志」の実現に向かって一層邁進することを明らかにすべきである。

答弁

２０２２春季生活闘争について

・今次闘争では、人財の流出に歯止めをかけ、雇用と生活を守り、ＪＲ産業の持続的な発展に繋げるべく、あらゆる切り口から「人材への投資」を実現することが求められた。

２回の交渉後、３月17日令和４年度新賃金が会社から回答された。会社側からは「３月16日に発生した福島県沖地震に触れ、現場で努力する社員に感謝する」「安心して働いてもらうために回答を延期

とせず本日の回答とする」と述べた。

組合側から、「新型コロナウイルス感染症から２年経ち昨年は係数２であったが、定期昇給４係数の支給に社員は安堵するだろう」「しかし要求していたベアが示されずに残念だ。物価上昇を考えればベアの提示があっても良いと言う気持ちである」「回答指定日前に回答をもらった」「回答書の中では雇用のことについて触れられてなかったが、会社との信頼関係を見れば雇用調整を行うとは考えられないと思っている」「労働組合として定期昇給係数４を主張しお互いに確認できたことは大きいと思う」と述べた。

要求には届かなかったが、早期の回答、苦しい経営状況の中でも係数４が確保できたことを評価した。

業務関係

・変革２０２７で想定していた世界が10年の間を置かずに目の前に現れたことは、皆さんもご存知の通りだと思う。時代に即応しようと矢継ぎ早に施策が提案、実施されている。そこには生産性向上、働き手の確保、そして質の高いサービスが求められている。非常に難しい課題ではあるが労使で知恵を出し合い乗り越えていかなければならない。

ローカル線・地方交通線のあり方について

私たちはJR連合産業政策委員会の活動を通じ持続可能な地域公共交通をつくるための政策提言をまとめている。

鉄道は「公」の性質を持ち赤字でも地域の輸送手段として都市圏や新幹線などでの利益を充当する「内部補助」で支えてきたが、人口減少、少子高齢化、自然災害による被災での長期運休などが相次ぐなか、コロナ過で甚大なダメージを受けた。赤字だから廃線という事ではなく利用状況や地域への協力、その地域にふさわしい移動手段など、地域と真剣に議論し鉄道の特性を発揮できるか、他の公共交通が良いのか、モードを超えた協力「チーム公共交通」の形成も必要。

JRや国、地方自治体、利用者や地域住民と真剣に地域公共交通の在り方について取り組みを展開していきたい。

会社の将来展望について

・決められたルールは守り、正しく報告し、新しいことにチャレンジしていくことである。理解し、挑戦し、実践し、振り返るこの繰り返しが、自分自身を成長させていく。会社の発展には安心して働ける職場、雇用の安定がなければならない。人への投資がなければ会社の発展はないと考える。真面目に取り組む社員だけが人への投資を訴えることが出来るし、真面目な社員に会社は応えると思う。

組織関係

・厳しい環境にあって執行委員会、拡大執行委員会において組織拡大運動について真剣に悩み苦闘して戴いたと思う。こうした地道な運動の上で日々日常業務においても仲間や同じ職場で働く同僚の代表として会社と対峙して議論を創造する姿についてはまさに「献身的であると考える。こうした姿こそが「企業内労働組合」の真の姿だと思う。

・会議の持ち方、大会の開催にあたっての御意見をいただいた。次期中央委員会において決定できるようみなさんと議論を進めて参りたい。

組織拡大運動

・「組織拡大こそが私たちの会社やイーストユニオンの明日を創造する」との認識に立ち、具体的には各自が目標を立て自らが考えて仲間を創り出す運動を展開することが大切である。自らの仲間は自ら行動して、求めて創造する、獲得することが大事。そういった意味では相手の話をよく聞き求めているものを把握し、提供することが大切。考動するのはまさに「今」でしかないと考える。ＳＮＳの活用も視野に運動を拡大し具体的に実施していきたいと考えている。

安全問題

・安全の確立を最優先課題として位置づけた取り組みは今後も変わらないことと、愚直に実践していくことこそが、お客様の信頼、働く仲間の安心に繋がることは言うまでない。私たちは、引き続きＪＲ連合安全対策委員会と連携して、タイムリーな情報発信・情報共有を行うと共に、共通の課題に対する対策の立案を図り、安全に対する意識を高める取り組みを展開する。

・技術継承・技能継承については会社側に申入れを実施し、安全の確立に警鐘を鳴らしてきた。しかし、この１、２年で国鉄採用者がほぼ退職し経験の浅い社員が現場で主体となる。また、組織再編や、営業統括センター、統括センターの発足により業務の融合に伴う仕事の在り方が大きく変わる。

・労働組合としての役割は今後益々重要となる。チェック機能を働かせることは元より、健全で建設的な集団的労使関係の上に職場からの取り組みが不可欠であり、労働災害が繰り返し発生する現状を踏まえ、「将来を見据えたJRにおける安全風土の確立との私たちの働き方」の提言内容を念頭におき、より安全な働き方について議論を重ね、労使協議への活用を図っていく。

イーストイノベーションと変革２０２７

・会社と共に自分たちで自分たちの生活を変えていこう、ということでのイースト運動の旗印。労働組合での運動を展開するにあたり、社会情勢や会社経営状況、組合員の生活環境等の変化がある中で、組織としての土台となる考え方の基軸として作成した。具体的な運動は大会等でその都度方針を提起し、年度ごとに区切りをつけながら運動に対する行動を行っていくが、イーストイノベーションは組織としての運動の在り方、考え方、方向性をまとめ、組合員が総括的にしたもので、運動を展開する際の基軸としてぜひ据えていただきたいと思う。

政治活動について

・参議院選挙での川合参議院議員支援での取り組みにまず感謝申し上げる。目標を立てて取り組み、その総括をしていただいたことは、運動として政治活動の取り組みをしているということであったと思う。そういった考えを作り上げて、日ごろの運動づくりに取り組んでいることに感謝申し上げる。

・支援してくださっている先輩の思いをも背負ってキチンと成就させなければならないと考える。私たち自身の結成の「志」を決して忘れることなく、「志」の実現に向かって一心不乱に「前へ‼」むかって運動を推し進める事、行動していくことが大切である。

総括答弁

７名から発言をいただ

大 会 宣 言

本日 私たちは、田町交通ビルにおいて 第 10 回定期中央大会を開催した。

私たちを取り巻く環境は極めて不安定かつ流動的で、先行きを見通すことができない状況が続いている。市況の高騰や欧米を中心にスタグフレーションに陥る可能性など、私たちも会社も現状を打破し生き抜いていくために、柔軟な発想と勇気をもった施策の実現が求められている。こうした現状にあって、私たちは私たちの求めるすべての仲間が、活き活きと働き、明るい将来展望を描くことができるような状態を早急に取り戻していかなくてはならない。そのために「企業内労働組合」として、会社が今後も持続的に社会的使命を果たし続けることができるよう、JR 各社、JR 連合の仲間と共に、あらゆる活動を通じて取り巻く環境の整備を行っていく。そして組織の重要課題を確認するとともに、当面する活動方針を満場一致で決定した。

「JR 東日本民主化闘争」の開始宣言から 23 年を迎え、今ほどその必要性が求められている時はない。現状は国鉄改革に並ぶ大転換期であり、会社が強く推し進める「変革２０２７」はその中心にある。目指すべき方向性自体は私たちと変わらないものの、問題は「変革２０２７」の実現に向け、現場第一線に働く仲間が理解し納得して施策実現に向けて行動できるかにある。私たちは、組織結成の原点である仲間に徹底的に寄り添った運動を展開し、さらに働く者の立場から力強いメッセージを発信していく。そして「会社と共に」を職場第一線において具現化し、さらに「イーストイノベーション」を実現する事を提言し多くの仲間の結集を図っていく。私たち組織の拡大に向け、すべての仲間が遮二無二「前へ！」行動する事を求める。すべての運動の基礎である「安全の確立」をはじめ、ＪＲ東日本で働く仲間、組合員・家族の幸せと、会社の持続的発展を実現していくために、①『イーストイノベーション』から、魅力と信頼のある組織を築き仲間の総結集を目指す。②「安全は絶対に譲らない」との信念の下、職場から「重大労災防止の行動指針」を実践し、すべての社員が参画する「ＪＲ関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を実現する。③変革 2027 中間点、「豊かさ」「信頼」の創造する価値をさらに発展させる。④イーストイノベーションを実現し、私たちの求める会社像、労働組合像を創造する、以上４点を運動の基調に据え、組合員が一丸となって実践していく。

労働組合の必要性を組織の最重要課題とし、会社の将来を切り拓き私たちの理念を広める運動の実践をしていく。そして「ＪＲ連合ビジョン」からＪＲ産業に集うすべての人材を包摂する運動の輪をＪＲ東日本の中に創る。

ＪＲ連合 30 周年を迎えイーストユニオンの原点を振り返れば、私たちの運動も 29 年目となる。ＪＲ東日本の中で私たち組織の存在意義を訴える運動の展開を強く望む。ＪＲ東日本はもとより ＪＲ産業に集うすべての仲間に寄り添い、心と力を合わせて未来を切り開いていこう。

以上、宣言する。

２０２２年 ７月１５日

ジェイアール・イースト ユニオン
第 １０ 回 定 期 中 央 大 会

いた。内容は財政、組織運営、日々の取り組みの悩み、全て回答書に書かせていただいた。問題となっているのは、ひとりだけ労働運動はさせない。絆のある仲間なので悩みを共有しながら問題を一つ一つ克服していく。皆が前向きに頑張ることをやっていきたい。２０２３春闘は、会社が儲からなければ賃金は上がらない。だが、賃金は最大の労働条件だ。要求すれば全てが獲得できるのではなく、我々がいかにこの会社の状況を知り次なる戦略を立てていくのが大切。根拠を含めきちんと要求していく。

仲間の熱い思いを含め運動を続ける。まだ来ない仲間の思いにきちんと耳を傾けてほしい。まだ加入できない高い障壁があると感じられてしまう状況があると思うが、本部はそれらを一つ一つ打ち破っていく。皆で乗り越えていきたい。一糸乱れぬ行動をお願いしたい。一人で悩まずさらに前に進める。

令和4年度中央執行委員会役員

役　職　名	氏　名
中央執行委員長	菅野　一位
中央執行副委員長	国井　道徳
中央執行副委員長	瀬藤　正樹
中央執行副委員長	斎藤　勝彦
中央執行副委員長	斎藤　弘昭
事務局長	菅井　正和
中央執行委員	添田　寿男
中央執行委員	小林　徹志
中央執行委員	鮫島　　毅
会計監査	高橋　洋一
会計監査	菊池　博英

役員退任挨拶（要旨）
秋山中央執行副委員長

本日をもって副委員長の役職を解かせていただく。イーストユニオン結成から８年間精一杯やらせていただいた。我々は労働組合で仲良しクラブではない。責任の所在をきちんとしながら一つ一つ上がっていくことが大切である。併せてこの間多分なるご協力いただいたことにあらためてお礼申し上げる。今後は職場から更なる大きな改革を果たしていく。一人ひとりの仲間を大切にしながら、また作りながら皆さんと共に歩んでいく。この間ありがとうございました。お世話になりました。

今回、結成時より組織をリードしていただいた秋山順一中央執行副委員長が退任されました。長い間ありがとうございました。